

古風
談林
正風

飛家大系圖下

中村俊定文庫

文庫 18

855

2



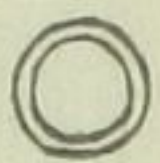
誹家大系圖下之卷



伊勢津

生川春明著

山本西武

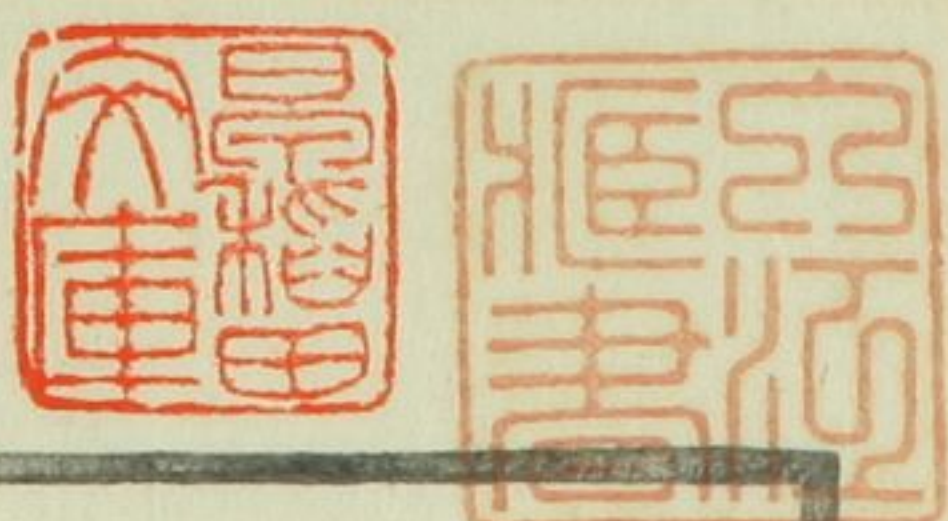


光方

佳種

瑞信

田中氏通称詳ナラス名ハ信光銀竹軒ト号ス京師久西武叟
 高弟ニシテ後一家ヲナス朝江種寛ト友トシ善シ 家書
 雀子集 常磐草 々々々々 等アリ
 星野氏通称六左衛門家名ヲ山田屋ト号ス京師久後剃
 髮シテ宗以下改ム西武叟老弟ナリ
 北岩倉桑門甫菴ト号ス 家書 連俳合掌 一卷
 アリ没年詳ナラス



正在隨流

崎入傳三
全勝慶安
トアリ歌
トミニ多

小原氏名隆光京師ノ人没年詳ナラス家譜ニ直弟ト
アリ案ニ崑山集ニ谷野正在ト云入アリ此人ヲ謬歛
中島氏通称源左衛門名勝直松月菴ト号ス薙髮シテ
隨流ト改ム隨流ノ二字ハ公書ソレノ經文ニヨル
トモ又ハ水車ト句ヨリ起ルトモ云三條川原町上ル住ス
即吟ニ達シ回文ヲ善ス家書 紙屋川水車寛文元詳吟
子句全篇同文ナリ
破邪顯正菅野谷高政ノ
中庸盜批言 鷲ふえ 百千鳥
貞徳永代記 二ツ 盃或書ニ曰ニツ盃ハ金勝慶菴任伯ト云人
ノ作トナリ隨流下葉ノ人歎考ヘシ
等アリ 宝永五年戊子二月土日没行年八十

隨有

文瓜

素伯

瀧川氏昌樂ト号ス復怒水子ト称ス儒學ヲ松永昌三隨ヒ
佛事ハ梅盛ヲ師トシ後隨流ニ属ス宗因風横行スルヲ憎シテ批
ノ書ヲル号シテ様ヤリウチト云
洛東鷲峯ノ桑門法名詳ナラス
家書 夢物語アリ
隨風 姓氏詳ナラス書風
隨流ト伯仲ス
京師法然寺ノ住職法名詳ナラス一号満郭ト云元禄五年印
本ノ書目録ニ源氏鬢鏡一卷著スアリ謬タルト上卷ニイヘリ

正長

貞木

島本氏通称七左衛門正伯ト号ス京師ノ人崑山集ニ田中正伯ト云入
リ貞翁真門人歎又廣澤長好ノ家集ニ同名ノ人モ云エタリ
出口氏花香堂ト号ス 家書 手松明 一卷アリ
元禄九年丙子十月二日没行年七十一

柳水

紹節

定之

乘秀

道可

中路氏神輿岡ニ住ス
家書 大元式アリ
藪内氏紹春カ男忠岳ト号ス京師ノ人茶事ヲ以テ業トス
没年詳ナラス茶人大系圖ニ忠岳ノ二字ヲモラセリ
神戸氏東林軒ト号ス 家書 一挺フズル 一卷アリ
西武晚年門人ト云元禄十三年庚辰九月六日没
辞世 朝うわ久しきものよ五十年
足田氏通称十一屋市兵衛始名養壽ト云
京師ノ人

山本氏名字詳ナラス京師六條ノ人ナリ或云東本願寺
ノ家司トモ扱或説
ニ曰西武叟撰スル砂金傳後集四巻師ノ名ヲシルストイヘトモ

月潭

尚榮

重晴

北村季吟

實ハ此士ト一雪トハカリテ撰スル所ト云イマ夕是非ヲ知ス
清水氏通称詳ナラス
友松軒ト号ス宇治ノ人
杉山氏通称嘉兵衛
京師ノ人
田村氏通称甚太郎不雪子ト号ス江加大津ノ人和歌連傳達
寛文年間京師ニ出テ俳道ヲ専門トス或云安原貞室門弟トモ

湖春

北村氏季吟長子幼名休太郎名ハ季重薙髮シテ湖春ト
改ム書ヲヨクス間ノ町ニ條下ル町ニ住ス父ニ從テ 東府ニ参仕
シテ法橋ニ叙ス 元禄十年丁巳正月十五日父ニ先テ卒ス行年
五有余池之端七軒町正慶寺ニ葬ル 花果院ト号ス

湖元

湖外

正立

玄水

湖春息子始湖源ト号ス 寛延二年己巳五月曾没

日宗寺ニ葬ル

姓氏詳ナラス一松軒ト号ス富小路五條上ル町ニ住ス 元禄年間ノ点者百人一句追加ニ載タリ 或書曰

北村氏季吟次男幼名權三郎名季次新玉津島ニ住ス後又仕
テ東府ニ在リ 家書ニ「ら」立アリ元禄十五年壬午八月
廿日没 瑞輪寺中玄妙院ニ葬ル成等院ト号ス

山岡氏通名玄磷抱壘齋ト号ス京師六角通ニ住シ医ヲ以テ業ト
ス吟叟ノ高弟ナリ 家書

諸國独吟

誦諧小式

身樂千句

誦諧仕様

方丈記頭書

吉野山独案内

徒然草欽補

隨葉集大全

水鏡抄

今川抄

風月往来抄

多我身乃上

等アリ延宝三年ノ夏疫癘ニ冒セテ没ス年記詳ナラス

好春

児玉氏向陽堂ト号ス或汲谷軒ト称ス京師ノ人 或南都ノ人トモ又
家書 新な鳥アリ 家譜坂上氏トアリ謬ナリ

松 春

松 泉

未 達

竹 翁

元 恕

可 全

立 卜

児玉氏好春息池流亭ト号ス 家書 祇園拾遺物語

未達 誦諧小傘 同等アリ没年不詳案ニ宝永正徳ノ頃歿

児玉氏松春カ從弟初松洗ト号ス後泉ノ字ニ改ム松春没メ後

池流亭ト号ス又自小僧ト称ス 元文元年丙辰九月三日没ス

行年五十三〇松春ハ元禄五年印本 四十三番時代不同發合ニ

西村氏通称 名文重京師堀川 人ナリ書

物部氏業トス 家書 関相撰 三卷アリ

橋部氏耕齋ト号ス 宝永五年戊子三月五没行年

六十二京師人 當百人一ノ一人ナリ

山岡氏元磷從弟名字詳ナラス京師ノ住 家書

續俳諧任様アリ寛文延室中ノ人

大村氏通称彦太郎家名ヲ白木屋ト云京師室町ニ住ス和

歌連歌ニ達ス元磷可全ハ吟叟羽翼ノ門人ナリ

半井氏通名詳ナラス一六ト号ス始名ハ文郁京師ノ人後浪

名ニ移リ医術ヲ以テ業トス浪名三十六人一人ナリ

正風祖 桃 青

松尾氏俗称甚七或忠左衛門名宗房伊賀国上野ノ人始京師ニ出

テ吟叟ニ隨ヒ師木嶋筑波ノ道ヲキム後東府下ニ談林輩ニ交リ勳破

ニ正風ノ道ヲ開ク其風日々盛ニ其從弟月々加ル凡二十年有余人薙髮テ

風蘿房ト号シ芭蕉翁ト称ス

家書 二十歌仙 深川ノ菴室ニ芭蕉一棟ヲ植テ雨中ノ吟ハ芭蕉

貝かやひ 三百 韻 奥の細道 延室八年次庚申初夏傳狂可本屋

以下集門弟ノ条ニ抄出 元禄七甲戌十月十日没ス行年五十有三

栗津義仲寺ニ葬ル 終焉記ハ晋子其角ノ 枯尾花ノ卷首載

関キルニ尚翁ノ傳ハ路通ノ 行状記許六滑稽傳及ヒ一代記其

外諸書ニ委シケレハコニ不贅 尚門人等 中編下卷リ 下編ニ云ヒ

山口氏名信章字子達来雪ト号ス復自蓮池翁ト称ス 庭前ニ蓮池ヲ

故此名アリ天和三年其角力撰メルニ素堂カ荷與十唱アリ其

一章ニ「うきまよきまよき」ト云フ凡晴まきりト云フ又同集 其角蓮池ヲ臨ムノ句

「風秋の荷葉ニ扇と繪ヲ善シ松尾桃青翁ト友トシ善シ

家書 どのの句合アリ享保元年丙申八月十五日没ス

行年七十五谷中感應寺中瑞音院ニ葬ル

黒露

似春

山口氏素堂甥宗齋ト号ス稻中菴ト称ス家書硯 澤
老山集駿河百韻等アリ宝曆年間八十有余ニテ没ス
小西氏通称詳ナラス大坂ノ人ナリ江戸本町ニ寓シ後総州行
徳ノ社職トナル家書芝草ヨリ山ノ端千句等アリ扱或
書ニ曰似春ハモト里村家ノ門人ニテ連歌師ナリ通称加右衛門ト
号シ家名ヲ奈良屋ト云又ニ説ニ奈良屋加右衛門ハ導ノ信名ニシ
テ似春ニアラス似春ハ加賀屋三郎右衛門ト云イワレ方是ナルヲ知ラス

秀和

無倫

大野氏通名詳ナラス炭瓢齋ト号ス又自相水翁ト称ス始集和
ト号ス後今ノ字ニ改ム江戸ノ人也弱冠ノ頃某侯ニ仕ヘ辞メ後隱士ト成
正徳四年甲午八月卒ス六十有余 元禄九年 むつ千鳥ニ肖
像ヲ載タリ○男ヲ秀堂ト号ス父ノ後ヲ續テ家声ヲ墮サス
志村氏拾葉軒雪堂翁ト号ス江戸大鋸町ニ住ス本共越後人也
家書紙文夾ニ卷アリ享保八年癸卯二月廿九日没ス行
年六十三合海山青松寺ニ葬ル法名天質硯壽居士
辞世 水ハさ〜ハ水ヨリ水ハハの道

倫里

讀糟

吟市

吟市

浮生

水雲

足立氏徳葉軒ト号ス
石岡ニ住ス享保中ノ点著

来川

足立氏倫里息始古鈴又水軒
ト号ス家書金臺録
夢物語等アリ元文元
年丙辰十二月没

村松氏孤松軒ト号ス
紀州若山人

東武大徳院弟子安住院住職法名尊海和尚後本土江州
銀塘ニ居ス天和壬戌年卒ス 或書始高野山蓮花寺住職トアリ
或隨心院トアリ

久津見氏初名詳ナラス江戸ノ人
二世吟市ノ後ヲ續テ吟市ト云

北藤氏銀塘居或ハ迦樓羅園ト号ス江戸銀町ニ住ス家書
原誹論 水秤集 鳥跡話 等アリ享保

二年丁酉正月廿三日没行年四十八小日向金剛寺ニ葬ル
姓氏詳ナラス名ハ安朝丹州ノ人或阿州徳島ノ人トモ晩年ニ
及テ京師ニ寓居ス 家書 誹諧鳥合 大長刀
等アリ 當百人一句追加ニ出ナリ

可常 如春 友吉 素雲 康吉 道伯 自悅 久武

丹波國氷上郡神池寺中中姓院住職法名不詳家書法のそ
二卷アリ○又以隱入玄倫和意友。四僧神池寺住
可常門人歟
伊藤氏名字詳ナラス京師人延宝三年乙卯夏没ス

新百人二句ノ人ナリ 津田如春トハ別人ナリ
櫻井氏通称甚右衛門京師ノ人或人云友吉八山岡九隣門人
ニテ吟叟ノ直弟ナラストモイヘリイマタ是非ヲ知ラス
佐治氏通称詳ナラス晩年吟鳥ト改ム
京師ノ人茶ヲヒサギテ業トス

下村氏通称利兵衛京師ノ人
新百人二句ノ人ナリ

青木氏名字詳ナラス浪老ノ人医ヲ以テ業トス延宝三年乙
卯年没ス辞世 けいものやなくて浄土へ月の舟

濱川氏名ハ行中後師風ヲ変シテ一風流ヲウクル家書
空林風葉集 二日三百韻 花洛六百韻 等アリ

大鹿氏名字詳ナラス京師ノ人
家書 弘誓舟アリ

則常

伊豆氏通称亦兵衛
京師ノ人

宣休

中村氏俗称詳ナラス淨貞ト号ス又一安子ト称ス浪老ノ人
家書 浪花草四卷アリ息子ヲ宣居ト云

ト琴

柴垣氏一下ト号シ松風軒ト称ス城南山崎巷ノ人繪ヲ善ス梵
益ト友タリ 家書 越路草四卷アリ

ト尺

小澤氏踞齋ト号ス始名孤吟ト云後蕉翁ノ門人トナリ今ノ名
ニ改ム 蕉翁東都ニ下リ始テ履ヲトキニハト尺ノ家戸ナリト

綾錦

ニアリ 寛延四年辛未九月卅日没行年詳ナラス
浅草誓願寺ニ葬ル○父ヲ得入ト号ス 称太郎兵衛本舟町坊正
宝永六年十二月廿四日没

自笑

行年詳ナラス連俳ヲ善クス
上林氏通称竹菴淨雪ト号ス城南宇治ノ人茶ヲ製スルヲ
以テ産トス晩年白川ニ閑居シテ俳諧ヲ専トス寛文始ツ

安親

川並氏通称不詳
江州ノ人
宣為 安親男吟叟
孝女 宣為
門子 妹

詩家万葉集

静山 橘泉 貞度 木因 胡兮 良典 古益 本水

浪老大文寺ノ住職法名詳ナラス○同名ノ俳僧アリ比叡山無
量院ニ住ス書ヲ善ス筆法定家様ニ似タリ
姓氏詳ナラス■松軒ト号ス京師ノ人医ヲ以テ業トス
十會集ノ一人ナリ

高木氏通名詳ナラス皆醉子ト号ス
尾州族ノ臣 寛文中ノ人

谷氏白櫻下ト号ス又自ラ抗■川公羽ト称ス後蕉公羽ノ門弟
トナル美濃大垣ノ人弱年トキハ木端ト云家書俳諧秘密

坂部氏弥堅ト号ス豊前中津ノ人
家書到來集アリ

舘氏意行子ト号ス江戸ノ人
家書むさしの集アリ

桑折氏通称左衛門名ハ宗臣青松軒本水居士ト号ス伊豫
宇和嶋族 家書大海集七卷アリ

頼邑 福富 任口 無端 千丸 白話 暫醉

桑折氏宗臣君息隣松軒
線三居士ト号ス

水野氏通名半内名勝種倫後福山疾或云梅盛門トモ
家書よりぬき千句アリ

名高通 曾テ連俳ヲ好ミ其頃
延宝中洛ヨリ季吟父子ヲ招キ専行ハセラル續連珠七之卷冬ノ部「季吟」始
テ於テ「深」トモハ北村ハ雨クハ

久居百五十韻アリ御秀詠公續連珠集ニ數多載キ開キ見ルヘシ
○氏統山ノ井集ヲ覽ニ江戸ノ住或ハ伊勢津ノ住トアリ苗氏ニ○ヲ
印ニ故アルヘシ新統独吟集 季吟判ノ詞ヲ撰ハハ江ノ久トミエタリ

二條 攝政康道公後淨明珠院ト号ス後中院昭實公男實
忠榮公ノ八男 寛文六年丙午七月廿八日薨六十

東本願寺御門跡 大僧正琢如上人淳寧院ト号ス寛文
十一年辛亥四月十四日寂四十二歳

東本願寺御門跡 大僧正常如上人靈瑞院ト号ス元禄
七年甲戌五月廿二日寂五十四歳

非家大系圖

旧旅

東本願寺御門跡 大僧正一如上人 忍見院ト号ス 元禄十三年 庚辰四月十二日 寂五十二歳
○右之御方々吟叟ノ門人ナラス 十會集ニ出ルヨリテ爰ニ録ス

高瀬梅盛

元晴 高瀬氏称
太右衛門 元親 高瀬氏称
仁右衛門

信德

伊藤氏通称助左衛門梨杵園ト号ス又自竹太子或ハ
ト称ス新町夷川ニ住ス幼時貞祖ニ見ユ祖翁許スニ徳ノ字ヲ以
テス翁没メ後西武梅盛ニ從テ道ヲ學フ武没メ後一向梅盛ヲ
師トス毎ニ家事務有テ東府ニ往及ニ數擅林ノ徒ニ會メ師風ヲ
變ス故ニ句異躰多シ又蕉翁ニ親クシ深シ公羽東府ヨリ書ヲ洛ニヨ
セテ曰近上都ノ風體何如下信徳和及我黒ノ数人ト日々相會メ
討論ス不覺至飲酒數斗終ニ雨の日や門提テ以カキツク此
句ヲ作テ以テ贈レ宜ナルカナ其音節ノ佳ナル一其角雜談集及
俳諧古選ニ記セリ 家書 江戸三吟 延宝六年信徳東
堂ト三吟ノ三百 十百韻 五蔵言 白 重

浮世姿 七百韻 胡蝶判官 桂まがし
等アリ元禄十一年丙寅十月十三日没行年六十六

信昌

伊藤氏信徳男通名没年詳ナラス按スニ元禄四年印本有リ
三信徳孫の男ゆりけ 樹ト 沖身分の故と追まればし
ト昨非ノ吟アレハ弱年ニアラサレシ尚信申云次男モアリ後世通セス
津田氏通名詳ナラス若州小濱ノ人

去留

家書 青葉山アリ
寺田氏通称詳ナラス 關山集ニ寺田次郎左門正安寺田清兵衛休也ニ人
印本種ナリニ之卷ニ老衰驚初秋ト前書シテ 家書
己ナレバ今初の一葉ニ發スルヤト云吟アリ 新独吟集 花見舟慶
等アリ

重徳

管原氏京師ノ人
百人一句ノ一人
可心 三宅氏若易小濱ノ人
姓氏詳ナラス流水堂ト号ス江劔柏原ノ人 家書
柏原集 當世百人一句 等アリ

江碓

水石

信安

植村氏棹歌齋ト号ス始名芥舟ト云江加水口人後京師住ス
狂歌ヲ善シ茶香ヲ嗜ム家書 あくく之稱 花拾遺
等アリ 元文三年丁巳八月十七日没行年六十八
姓氏詳ナラス老山子ト号ス

一醉

越後新瀉ノ人
姓氏詳ナラス
京師ノ人
楊々子 丹後宮津沙門法名不詳
家書 浦嶋集アリ

蚤海

隆志

北村氏錦花堂ト号ス又自信安齋ト称ス家書合 鏡
芭 本 百杜 鶴 草むすび 等アリ明和
元年甲申歲九月六日没齡七十辞世ノ詞書云鳥將死鳴声悲久
將死言善ヲ 誦證雜一休有常不用之一生篋云殘誰命期月
日忘哉 乃々ちとけつれとつひはとれり

隆雅

北村氏隆志息子初錦志ト云醒井通松原上ル町ニ住ス父没メ
点者トナル 家書 宵月夜 善集也 天明二年壬寅四

豊秋

月北四日没行年詳ナラス
長村氏皐鶴齋ト号ス宝曆六年丙子十月廿九日没
行年五十七京師人

春雄

杉本氏青々館ト号ス綾小路通鳥丸東ニ入町ニ住ス
即吟ノ達人善ク數句ヲ吐ク没年詳ナラス

文也

山本氏梅園ト号ス醒井通高辻下ル町ニ住ス
安永八年己亥七月廿八日没行年八十五

胤公

辻氏大黒菴ト号ス明和七年庚寅八月二十五日没享年四
十四辞世 梨の乃乃丸くこりて果よりり

順也

内田氏幼名平吉 或云俗 称トモ 京師室町人ナリ
家書 五節句 アリ

本春

野田氏通称 重春舎弟ト云
家書 三十六俳仙集アリ

倫員

藤村氏名忠久 芥舟菴ト号ス薙髮シテ如堅ト改ム京師ノ
人ナリ家書 木玉集 アリ 藤村庸軒男

秋風

宣安

一

離雲

行貞

安重

如泉

三井氏名、時次京師ノ人家書 狂遊集 二卷アリ

没年詳ナラス **古選**ニ鳴龍住トアルハ別人歟

筒井氏通名平三郎名良以ト云後百之ト改ム東府ノ人始良
德二隨ト後梅盛ニ属スト

内山氏通名正菴播劬姫路ノ人始貞翁ニ從ト後梅盛ニ属ス
家書 早梅集 六卷アリ

隱僧姓氏詳ナラス洛陽東山清水寺ノ麓ニ草菴ヲ結
懷慧菴ト号ス和歌連歌及狂歌ヲ善ス

内海氏通称治兵衛名光重不才子ト号ス内海宗惠カ從弟
ナリ没年詳ナラス案スルニ寛文中頃歿 **山下水** 春之部下ニ

安重「世とくく」浄土の春入日かト梅盛ノ吟アリ
齋藤氏始名朝三ト云後今ノ名ニ改ム菴ヲ四條道場中ニ結テ

真珠菴ト号ス善ク漢和二達ス 家書 重宝記
狂歌句式 漢和十句 松むやし 池心亭

番匠童 其角カエラニ三ツト置 等アリ 正徳五年己未八月
十七日没行年七十有余 ○始八香山氏ト云

如雲

秀朝

竹翁

永力

一步

一笑

姓氏詳ナラス京師ノ人 家書 五百三歌仙 如風 姓氏詳ナラス 京師ノ人

藤井氏通称吉左衛門梅遊子ト号ス三條油小路ノ人梅盛及
貞室ニ隨フ明暦年間没行年詳ナラス **鸚鵡集**ニ見エタリ

西村氏通名良菴瑞竹軒ト号ス肥後國熊本ノ人始貞翁ニ從
翁寂ニテ後梅盛ニ属ス家書 松花集 肥後名所

等アリ没年詳ナラス案ニ延宝天和ノ頃歿
齋藤氏通称玄真浪老内本町ニ目三佳

医術ヲ以テ業トス没年不詳
千村氏通名詳ナラス濃州ノ人ナリ父ヲ重樹 **称喜右衛門** 貞徳翁ノ

直弟ニシテ秀吟寛永ノ鷹筑波集ニ多ク出タリ

小相氏名ハ味頼加笏金澤ノ人梅盛及秀吟ニ隨フ後蕉翁ノ
門弟トナリ翁ノ風ヲ吟ス元禄元年没行年詳ナラス室晋齋其

野也
重道

角ノ雜談集ニ曰加加金沢の一笑あはれぬ他借ふあやうし者
ありおのり脚の程ハ若くさんとも遠く心ききとてまひけね不
年ありて重芳の衣よりちぬりていふ合けきつものひりり
又十三回ありて奇仙の他借と十三巻孝忠とて思ひま
けもくくもて息なきとゆひけ願のちぬるをばつとて五
いふゆゑんたひきげんひちり小死いとも悔たうねとて五
引仙出来ぬまは子帯とゆふうまひぬるをばつとて呼ばぬて
ぢやまび八巻とてぬく満きとて我ぬまはてこそゆり
あひひゆせとてゆりゆりゆひの眉重くふきうりて「んう」雪う
くしや西のくも臨終正念とすくゆりゆりトミチり尚同名ノ
俳士數人アリ委ク俳家人名類聚三云ヘシ
高梨氏通称丈菴京師ノ住医術ヲ以テ業トス和歌連歌連ス
又書ヲヨクス明暦万治年間ノ人新百人一句ノ内
木村氏通称詳ナラス飯笹子ト号ス江東草津ノ人書画便覽
ニ三十六人ノ内ヲモラシテ此士ヲ載タルハ案盤オロカナリト云ベシ

政時
吉頼
重尚
良三

原田氏ト有子ト号ス
京師久後命政ト改ム
坂倉氏不驕軒ト号ス
濃州竹ヶ鼻久ナリ
小山氏拙心子ト号ス
京師ノ人
一村氏藪竹子ト号ス
京師ノ人

樂圓
可政
道繁
以專

京師觀音寺住僧法名
詳ナラス一号知泉ト云
大田氏通名勘十郎貞松子
ト号ス濃州竹ヶ鼻久ナリ
佐々木氏
京師ノ人
泉州坂真光寺ノ住職
法名詳ナラス

石田未得

可曉 宇田川氏
可信 同苗
未石 同苗邑里
歌道 同
堂俳家

未琢

石田氏未得男良堂ト号ス居所父ト同シ
一本草 和句 解 或云未得 著トモ 等アリ天和二年壬戌三
月廿日没行年七十有余浅草誓願寺ニ葬ル 法名
隆芳院未琢居士 新百人一句ノ一人ナリ

意深

不卜

石田氏未琢男菊川ト号ス
 吉田意安ニ醫道ヲ学フ
 岡村氏通称市郎右衛門一柳軒ト号ス東府人 家書
 江戸廣小路 向のとり
 四年庚未四月九日没
 櫻井氏未琢ノ門人トリ
 中橋通ニ住ス
 平阿山法恩寺ニ墓アリ

不角

立羽氏虚雲齋ト号ス或ハ南々舎松月堂ノ數号アリ。薙髮
 シテ法橋法眼ニ任ス。後自千公羽ト称。書画ヲ善ス。江戸八丁堀
 ニ住ス。此士才学スコフル高シ故ニ師風變シテ一家ノヲ成ス。化鳥
 風ト云家書
 笠乃 蠅 鎌倉紀行 三ヶヶ輪 九卷
 同 十卷 同 十一卷 木曾の麻衣 清々むる
 母思集 二葉松 信順行 百人一句三
 一騎 步 等アリ宝曆三年癸酉七月廿一日没行年九十二
 本願寺中淨勝寺ニ葬ル 墓所一覽ニ宝永ト云ハ筆ヲ誤リ也
 辞世 空惚ハとくの裸ヲ返シける

あまよき
 著述七十五版
 焼失トアリテ
 百八句マテ
 載タリ

再曰綾錦後集 鳥山彦 享保廿二年 印本上卷 詠風變化ノ辨ト云条ニ
 「元祿のまゝ晋子其角洒落詠諧と云付合の一体と起ル
 岸本調和。阿曲一峰。大野秀和。岩本子英。等の宗
 匠合体一々當時の洒落と云詠諧ハ謎字乃体子似て去
 かも一句以訣別る」當流正風体と云ハ是小色くをうへと
 黄楊枕と云書と編を北藤浮生。原詠論といつ書と以て
 其返答を以て正風と化鳥といふと詠諧一けより華江の
 詠諧三流小くぬ中 立羽不角ト云 今以流儀
 かく息不角 壽角の三士ハ益々一流と立て他の詠風
 小かちと云トアラハ不角ノ流義ヲ化鳥ト云 謬歎

不局

山夕

立羽氏安月堂ト号ス不角ノ長子ナリ
 家書 杉子のらむ 風姿集 壽角 二男松千堂ト号ス
 ○不角門士魏々ト群ヲ成ス雖然後世聞タルナシヨリテ畧ス
 樋口氏 二世 山夕 始仙水ト云久保町ニ住
 江戸住

荻野安靜

通或書安靜初名荻田九郎兵衛重和トアリ此説ウタカシク直勇条
二洩セシ三卷刻ナリテ後道遊集貞徳翁
家集也ヲミルニ荻田安靜トアリ是ニヨリテ
同人ナルヲ知レリ

似船

富尾氏通称弥二郎名重隆芦月菴ト号ス後薙髪メ似空軒
ニ世続テ似船ト改ム五條堀川久家書隱ゲサ 芦花集

堀川水

苗代水

勢田長橋

大上戸

安樂音

火吹どけ

此二書室永カク旨
當時火吹竹ノ唱哥流行セリ

入相鐘

等アリ室永二年七月十六日没行年七十七

姓氏詳ナラス京師久家書

口説草 四卷アリ同

名俳士勢陽松坂ニアリ別人ナリ

加計

林鴻

鞭石

堀江氏通称 名六重則烟月堂雲風子ト号ス江州
大津久後京師ニ寓ス戯文ニ達シ画ヲ善ス 京羽ニ重 等アリ
ル所ナリ家書わらむつし
福田氏井亀軒ト号ス後而笑堂ト改ム晚年自法見ト称ス京
師久家書 磯あき松 一卷アリ享保十三年戊申

二月十五日没行年八十歳

辞世 終よく岸の柳也法の見

佐藤氏桂花菴ト号ス 享保十五年庚戌十二月三日没

行年七十京師久家書當世百人一尚ノ一人ナリ

佐藤氏有扇力徒弟名宇詳ナラス元禄年間ノ点者

先兄没ス當世百人一尚ノ一人

村山氏風流子ト号ス京師久家書元禄室永中ノ点者

没年詳ナラス

若江氏通称詳ナラス名令之京師久家書

攀高

山縣氏杏花亭ト号ス 享保十五年庚戌十二月廿七日没
行年六十四 京師久家書

梅應

山中氏西翁堂ト号ス室曆二 享保十五年庚戌十二月廿七日没
年壬申二月没行年不詳 梅應 山中梅應息天明七年
丁未五月四日没五十一

練石

福田氏ニノ鞭石ノ孫ナリ鞭石没後門人等師家ノ系緒断絶セ
ニテ憂於是芦花翁其嫡孫練石ヲ輔テ二世点格ヲ立テ舊号
ヲ續テ即チ而笑堂ト号ス晚年石々翁ト改メ玄兒ト称ス松原室
町西入町住ス家書岸柳法兒連善系ヤルキ高低窟
等アリ寛政元年己酉七月六日没行年八十八
辞世 〴〵洗ひん乃月の鏡ノ如

一四

西川氏明月菴ト号ス又自政齋ト称ス京師人 延享
三年丙寅九月十四日没行年三十八

辞世 何悟ノ喝ノ一声 秋乃蟬

竹田氏玄々堂ト号ス 寛保三年癸亥閏四月三日没行年
五十七歳 辞世 ゆく雲よきて連づらん時鳥

羽紅 知石

鈴鹿氏寸松堂ト号ス自芦花翁ト称ス弱齡ニテ而咲堂門人ト
翁ニシテ執筆ヲ役セシム故ニ翁ノ顔愛ヲ得テ家秘口決傳之無遺
家書 野馬臺集 三卷アリ 元文五年 庚申

十二月十三日没 行年六十歳

荃石

知石カ息初名ハ知九寸松堂ト号ス生質穎敏ニテ且萬實家
風雅ノ器タリ家書千里雪云父没後幾少歳アラ
スノ寛保二年壬戌六月廿七日没行年三十人甚惜之

辞世 終り水無月涼 月清し

知木

鈴江氏寄松堂ト号ス家書橋立松 元文五年 庚申 五月
廿日没行年四十四 辞世 ゆく水ととも小涼し 石川也

翠柳

山中氏花木亭ト号ス 明和元年丁酉十月十二日没行年
七十二 京師ノ人ナリ

蘭石

中村氏雪竹齋ト号ス 元文三年戊午七月二日没行年
五十五 辞世 萩の夢 弘院ときく夜と期哉

蘭石

中村氏蘭石ノ息ナリ初如蘭ト云後父カ名ニ改ム元文点格
益佳ニ京師白山通松原上町住ス天明二年壬寅正月十三日没

行年六十九 辞世 無ハ数ク一日もつて枝々

佳山 丈石

中村氏央更舎ト号シニ蘭石齋ト号ス而咲翁ニ從テ道ヲ學フ尤点業ヲ續ク天明八年戊申九月廿日没行年詳ナラス早川氏千載堂ト号ス初名和雄ト云師家ノ執筆多ク曾テ四時堂主ニ因テ漢和ヲ善ス師没ノ剃髮シ宗順ト号ス家書

筆舞堂 長樂寺千句 菅菘日記 西吟百歌仙

緒手卷拾遺 橋立紀行 南紀紀行 狂歌百首

仙諧家譜 等アリ安永八年己亥七月廿日没八十五歳

辞世 極樂ニ 誕生日ハクカケレヤ

古澤氏芸暉堂ト号ス初名牛磨ト云 家書狂連十句大石西吟

袖 鉈 園 莖 立 等アリ寛保四年甲子十月六日没

四十四歳 辞世 我のこゝろかゝるハ霜の柱立

梨風

奥村氏芸暉堂ト号ス宝曆十三年癸未十月六日没行年五十 有余 辞世 一とふはき霜の基なる

蘆中

林石

甲良氏伏亀堂ト号ス初名愚候ト云又自都齋ト称ス後荃石ノ後ヲ續テ寸松堂ト云家書松乃林 梅乃林 等アリ宝曆二年壬申四月廿六日没行年六十三

因石

三谷氏松養軒ト号ス初名君李後今ノ名ニ改公明和二年乙酉三月廿八日没行年六十七 辞世 名もかゝる花の浄土へ宿をひり

都牛

高橋氏轟々齋ト号ス又千蝶子ト云寛延二年己巳月十五日没行年四十四 辞世 何のまゝ沙々多き一秋乃風

五株

八木氏化龍館ト号ス洛東新道柳町ニ住ス天明八年戊申六月廿日没六十六 辞世 いとまをのりこを蚊帳の中

其梅

野村氏伴松堂ト号ス天明八年戊申二月廿日没行年七十歳京師人 辞世 祐をくハ無為の都と住所

調和

岸本氏通名猪右衛門名ハ友正薙髪メート号ス又主齋ト称ス江戸呉服町ニ住ス江戸歴士及圖鑑編目 本主ハ奥州久也始京師ニ出テ安静ノ門トナレ側ニ梅盛ノ教ヲモ受ルト家書 是まぐ草

冨士石 題林一句 等アリ正徳五年乙未十月十七日
没行年八十有余 築地門跡中ニ葬ル法名調和院道鑑居士
号ス 肖像ハ太白堂桃隣ノ陸奥千鳥ニ載タリ

調和

堀尾氏設柳堂ト号ス初名ハ和推ト云調和ニ世ヲ續テ師
名ニ改ム木芝ニ住ス 寛保三年没行年詳ナラス

艶士

横田氏壺谷軒ト号ス東府ノ人医ヲ業トス
家書 夕外集アリ

風和

江原氏正六位佐渡守ニ任ス出羽國社司梅樹軒ト号ス家書
梅乃露 杷 菅 等アリ正徳二年壬辰二月十
八日於京師卒ス行年六十一歳

立羽不角撰
頁三最上郡
大谷ノアリ

心友

中田氏通称詳ナラス鶉巴軒ト号ス始東府ニ住シ後伊勢國山
田乘ル神風館足代弘氏神風館ノ祖傳
系中編ニ委ト親シ檀林風ヲ吟ス秀
吟杉の群立ニ出タリ又自ラ撰ハ御田扇四巻アリ没年不詳

和椎

堀尾氏始名ハ和專鐵ト号ス敬而菴ト号ス二世調和ノ息子
芝濱松町三町目ニ住ス没年詳ナラス
藤田氏名字詳ナラス麻布土屋君ノ侍医元祖点印二世調和
ヨリ附属ス 宝曆六年丙子秋没ス

常陽

木戸氏通称詳ナラス医術ヲ以テ業トス後根津権現ノ社
職トナル享保年間没 むつ千鳥ニ肖像ヲ載タリ

一鉄

三輪氏名字詳ナラス宗因ノ門人ニテ調和ニ属ス或云池山池西
ニ属トモ言水ノ句集 毛登柏ニ江戶八百韻春明云古印本
與延室三年ト云集撰
一 ゆりり時素堂トあつとゆさの夜いゝ更ぬ所本
庄一鉄々詩家まうゝに〜てかさ〜のむを吹り云トアレハ
本庄ニヤ住ケン此文往時ノオモキ眼前ニミルコトナス
石橋氏名字詳ナラス伊豆ノ國人
家書 青柳千句アリ

宗英

内本氏
京師久
俊秀 村瀬氏 定利 徳永氏
京師久

喜得

高嶋玄札

及加 高嶋氏通称善大夫勢陽山田ノ師職玄札ノ
從弟ナリト云 家書 嘲哂集 アリ

或不在菴加友法師ノ門人トモ云是非ヲ不知

一 蜂

河曲氏俗称詳ナラス田泉舎ト号ス又自葛仙翁ト称ス江戸
神田ニ住ス晩年本土勢陽山田ニ皈ル享保十年己巳九月十昔
没行年八十有余 陸奥千鳥ニ肖像ヲ載タリ

正法寺成安

成政 池嶋氏

宗 吟

池島氏通称在右衛門名成之泉州堺ノ人成政從弟也。
古短冊裏書ニ池西言水カ伯父宗吟ト号大和郡中ノ下アリ同名別

正 重

多木氏俗称京屋清兵衛

柳 夏

泉州堺ノ人
細谷氏通称詳ナラス名成元
泉州堺ノ人

池田正式

正 親

池田氏正式男玉海集及源氏鬘鏡
五十四ノ一人ニ撰ケラレ郡山侯ノ臣ナリ

正 辰

岡村氏通称詳ナラス大和國郡山ノ住家書大和順礼集三卷
續天和順礼集 五卷アリ寛文年間ノ人

法樹院加友

加 連

伊勢松坂ノ姓氏詳ナラス樹教寺中
僧欽毛吹草 山井集 二秀乃吟多

クイリ 山の井ハ正保四年印本大本ナリ
慶安校ハ横本ニテ再刻

氏 守

荒木田氏

子 英

岩本氏通称忠兵衛伊勢松坂ノ人後江戸ニ下リ淺草ニ居住ス
後又本所ニ移ル家書 黄楊枕 花時鳥 等アリ
貞享元禄年間ノ点者 白魚ノ句ノ美談アリ爰ニ畧ス

詩家大系圖下卷

乾什

岩本氏子英 千歳児ト号ス満足菴ト称ス初名ハ吳文
ト云浅草竹門ニ住シテ一号ヲ竹婦人ト称ス戯文ニ達シ
水調子ト云院本世ニキニタリ宝曆九年己卯二月十七日
没浅草寺境内人丸社前墓牌アリ

再曰加友撰集 伊勢とより イマダ閱セス此外門弟多カレシ
或書ニ延宝四年ノ 言羽織ヲ引用シテ
此名ヲ出セリ 棕梨一雪カ一号欵又親族欵
予未タ此書ヲミス

棕梨一雪

文西

一貞

高田氏通称傳兵衛京師人後東武ニ移ル
家書 貞徳誹諧記アリ寛文中点者

友意

渡邊氏通称八弥尾刃名古屋人ナリ 或云友次門弟ナリト
家書 旅衣 四巻アリ 万治寛文中

春昔

姓氏詳ナラス 独舟軒ト号ス
京師人

藤谷貞兼

貞頼 藤谷氏通称三右衛門 貞兼父歟
貞則 藤谷氏通称弥右衛門
貞勝 藤谷氏通称弥七郎

西角

寺井氏輪花堂ト号ス自村雲翁ト称ス又要心居士ト号ス
京師人ナリ 享保十五年庚戌八月八日没行年七十歳
辞世 月夜とく月く今以十万里

一方

北川氏西角菴ト号ス湖塵窟ト云自鶴翁ト称ス後薙髮メ
行雲ト改云西堀川通元誓願寺町ニ住ス家書 鳥宿アリ

宮川松堅

長之 宮川氏通称三郎右衛門 松堅兄歟

晚山

瓜木氏唼花堂ト号ス又二童齋ト称ス初名ハ永可ト云富小
路加藤盤齋カ舊宅ヲ購ヒモトメテ居所ス家書 千代古道
橋立案内 等アリ 享保十五年庚戌八月十昔没行年六十

非天大系圖下卷

九歳門人等遺言依テ雙岡長泉寺中兼好法師ノ墓ノ傍ニ立
辞世 由多々くある身ハあつたの葉の落
再曰元禄五年 書目録ニ山太郎返答摸物語ヲ著タル
門人石柱ト云人アリ是レ晚山カ秘号歟

晃山

爪木氏晚山ノ息男ナリ後京師ヲ去テ津國長柄村ニ住シ
雅業ヲ廢メ医トナル 没年詳ナラス

道山

井上氏櫻戸ト号ス 享保五年庚子八月十五日没行年
六十四歳京師久

白鶴

大矢氏初名虎竹我黒ノ門人ナリ黒没メ後晚山ノ弟子トナル
蘆隱軒ト号ス老後薙髮メ高辻烏丸東清香菴ニ住ス自第
齋ト称ス 家書 四季大全 俗根源 等アリ
延享三年丙寅九月廿七日寂 行年七十九歳

梧山

重田氏寄石店ト号ス初淡々門人後白鶴ニ属ス回文ヲ善クメ
即座數句ヲ吐ク家書 青海波全編アリ 享保十八年

晚年

貞為

癸丑三月二日没行年三十八 曾テ聞ク臨期夜窓前ノ梅
樹花終ニ殘ル偶鵬ノ来啼アリ山カ曰吾將終即取筆辞
世ノ句ヲ書ス 香やひき法とく名のきびや 書シ
已テ眼ヲ閉ク可憐年来ノ習情末期ニ及テ猶作回文句ヲ
野々山氏初名施隱招花堂ト号ス 享保十八年癸丑八
月八日没 行年五十八歳京師久
梅原氏和海軒ト号ス 享保十三年戊戌七月十四日没
行年六十歳 京師久 枳園ノ三世トス

松貞

加藤氏通称詳ナラス枳園ノ四世トス 享保十五年庚戌
四月七日没行年詳ナラス

清佐

北田氏通名詳ナラス享保七年壬子九月十八日没行年四十七
辞世 木まりのやちりて益うきひ身か

周為

大塚氏雲石翁ト号ス松貞
没後枳園五世ヲ續グ 鳥道
徳田氏伊高齋
ト号ス京師久

賦泉

石田氏名字詳ナラス七條南魚店堀川住ス安永五年丙酉十一月廿九日没五十七辞世リリ少々々々其の事佛

倭泉

石田賦泉妻泉没ノ後引墨ヲ修ス
普求門弟没年詳ナラス

應隨

松本氏窓月菴ト号ス鍛冶町松原住天明三年癸卯三月十日没ス
五三辞世 世の縹々へき心我も形多し

可静

戸田氏瑞雲園松亭ト号ス寓舎公應隨ト同所天明五年乙巳
十月六日没行年五十八拾遺家譜増補三正月五日五十五歳トアリ

辞世 寂ハ函暮し ぬ日乃雨ハ

半井ト養

器水

半井氏温野慶友次男泉州堺人
又云立圃門人定親一号ヲ器水子トアリ
考ヘレ○又云綾あきニト養門人ニト入
ト一ナド載タトモ故アリテ爰ニ畧ス

ト仙

半井氏ト養男

兼豊

門村氏通名詳ナラス薙髮ノ法橋ニ住ス江戸久保町住ス晩年ニ
及テ居ラ京師ニ移ス本土南都人各ヲ善ス

吉田友次

流水

吉田氏友次ノ男カ尾州名吉屋久梅盛
門ニ遊フ家書 二ノ尺井 一卷アリ

高瀬道甘

見性

伏見蔵之坊ノ住僧

間加

伏見蔵之坊ノ僧衆スニ後年間隨ト号スル
當世百人一句ノ一人ハ此僧ノ後名歟

片桐良保

良保ノ二字ヲ名乗ラント思ヒラリシ青木鷺水ノ俳諧新式ヲ
見ニ政恒トアリ上巻貞徳直弟ノ条ニヤマリテ洩セヨリ爰ニ識ス

常矩

田中氏始貞翁ノ風下ニ從ヒ眼ヲ開テ一流ヲ起ス二年一蛇之助ガ
識量アリ始貞翁ノ風下ニ從ヒ眼ヲ開テ一流ヲ起ス二年一蛇之助ガ
々々之鐘や花の暮ト吟テ蛇之助ノ号ヲ得タリ後宗因ト交會
シテ專ニ雙ノヲ吟ス 家書 花見三吟 雜 巾

捨舟破帚 補ざ先塵取
五百韻 等アリ没年詳ナラスト雖凡案スル天和年間欣
清風力著スモ曇碓下云吞宗因常矩退善集トキケリ未閱

如川 牧足

高松氏通名龍朔京師ノ人医術ヲ以テ業トス始ハ梅盛ニ隨後
常矩カ手ニ屬ス没年詳ナラス案ニ延室ノ頃欣 百人ニ句ノ人也
和氏通称源七郎圓常ト号ス上代風ヲ好テ筆道達ス曾聞
常矩撰スル集物多ク此人ノ筆ナリト云書画便覽ニ号ヲ寛車ト
アレトモ謬チリ延室七年ノ塵取集ヲ開キテ惑ヲトクヘシ

薄古

明田氏通名玄菴橘祥軒ト号ス京師ノ人医ヲ以テ業トス
後似舟ノ門下ニ屬スト 没年詳ナラス
北田氏通称詳ナラス二号遠雄ト云
京師ノ人

正業

田中氏通称作助ニ條堀川ノ人淡葉軒ト号ス始西武貞室
ニ隨ヒ後常矩ニ屬ス没年詳ナラス家譜ニ正徳五年八月十日
没六十歳トアレモ謬也古集ニハス尚常矩カ親族トスルノ覺束ナシ

生西

小野田氏名ハ 二竹軒ト号ス
京師ノ人

竹亭

溝口氏蚤歳ヨリ誦諧ヲ好ミ和及竹翁ト友トシ善シ每ニ行厨
ヲ携テ遠近ノ勝地ニ遊ス坐ノ吐キ行々吟テス日トノ句アラズト云
ナシ家書 せじやうきニ卷アリ 此各集キヨク知テヨク
壬申六月廿九日没行年三十五歳 才散アリ大同小異 元禄五年
姓氏居所詳ナラス

澤女

常矩カ集ニ秀吟多出ス

助叟

片山氏名字詳ナラス椿木亭ト号ス洛陽東山ニ住ス本共八肥
前長寄ノ人家書 京の水ニ卷アリ没年詳ナラス
案ニ室水頃欣サテ拾遺家譜ニ大淀三千風ノ門弟トセリ予
自撰ノ京の水ヲ閱スルニ三千風ニ隨テ據キニモアラス

可俊

森氏名字詳ナラス京師ノ人ナリ
家書 大路車付合集アリ

尚白

江左氏大津ノ人後蕉翁門派ニ似ス
委シク中編ニ云ヘシ羨ニ畧ス

暮四

石井氏始名龜林後一ト改公石壽菴ト号ス又自五橋公羽ト称ス享保十九年甲寅二月廿五日没 六十九歳

市貢

次山氏巨璞堂ト号ス又石壽堂ト号ス洛東鷲ヶ峯ノ麓住ス家書 彼 岸 暮四追善集ナリ 寛保三年癸亥正月四日没 行年五十有三 辞世 我ききえく窓りのこゝや鏡の空

市楓

松原氏名字詳ナラス石壽堂ト号ス初名、木ト云家書 乘 合舟 鷺 雪 市貢追善 等アリ

蝶之

人見氏芳草亭ト号ス明和五年戊子八月廿五日没行年五十一 辞世 一粒歩の道と西へと渡 鳥

松永尺山

貞山

相淵氏名字詳ナラス芦丸舎ト号ス又湖月亭ト称ス京師ノ人後江戸ニ移リ桶町ニ住ス家書 切つて兄 手橙灯 江戸名所集 其 傘 親 鶯 闇 磔 抄 寛保元年辛酉 没七十有余 再曰貞山師トスル松永尺山ト云人古書ニ云ス或書天和貞享頃松永未春ト云人アリ此人欣傳系ヲシラス

貞賀

相淵氏貞山ノ男

貞橘

姓氏詳ナラス江戸ノ人

貞至

星川氏澁柳菴ト号ス家書 机 勝手

貞屋

熊谷氏旭洲洞ト号ス京師ノ人

足村言當

重當 足村言當男

齋當

重當男通称 三郎右衛門

○以上道遊軒松永貞徳居士孫弟

○檀林風祖 並直弟

宗因

西山氏通称二郎名豊一始一幽ト号ス後宗因ト改公明曆万又自
 西翁ト称ス又梅翁ト号ス此外西子梅由子梅花翁野梅子忘吾子等諸号アリ元肥後國加藤家
 ノ侍臣ト云平保年間浪花江北天満天神ノ社地ニ住ニテ向榮菴下
 号ス其後社地ヲサリテ其菴盤屋町天満内也ニ移リ寓スノ初懷惠
 菴里村昌珠法眼二月廿六日卒六十六歳ノ門ニ入テ連哥ヲ喜シ天満天
 神月次宗匠トリ後長子宗春ニ譲リ己公宗鑿方天筑波守武神
 寺独吟千句ヲ慕テ滑稽家トナル一年西園ニ遊フ其頃即非禅
 師ノ法嗣法雲和尚ト博識ノ禅僧オス則俗弟子ト成テ禅意
 ヲ受クメクリ帰テ江戸ニ下リ都ニ登リ專新意ヲ吟ス依テ門
 子ト成ル人潮ノワクカ如シ寛文ヨリ下天和貞享ニ至テ名ヲ海
 内ニ裏ス此一流ヲ称シ當風トモ又檀林風トモ云 家書
 蕃椒百韵 獨吟千句 後五百韵 後千句
 西吟集 鎌倉二百韵 七百韵 花洛百韵
 十會集 釋教百韵 天満千句 北草二百韵

宗春 西鶴

四人法師 一時 兩 云了あ兄 高野紀行
 等アリ 天和二年壬戌三月廿八日没 行年七十三歳
 天満寺町西福寺ニ牌アリ

西山氏宗因息父ノ業ヲ續テ連歌ヲ善ク久天満其菴屋
 町ニ往ス延宝年間慈父連歌独吟集ヲ上木ス没年詳ナラス
 井原氏通名詳ナラス初ノ名ハ鶴永薙髮ノ一ト改公松寿軒
 ト号ス鎗屋町ノ人延宝年間一日二万三千句ヲ吐テヨリ称
 ニテ二万翁ト云又戯文ニ妙ヲ得著ス所幾許アリ家書
 大夫如伝 後天夫如伝 博多百合 朋不祢
 杉 石ころま 以下戯文 一代男
 大くく尺 二代男 櫻隠秘事 一代女
 武家きり 武道傳來記 文及古 永代記
 置土庭 ひんきくら 浪卷大鏡 白月算用
 名殘友 一日玉鉾 等アリ

松意

衛ノ筆ナリ其珍ニ冊子ナリテ
表目ヲ忘失シ致警思遠アケタ
元祿六年癸酉八月十日没行年五
二歳上卷抄出浪卷八町目寺町誓願寺ニ葬ル牌面曰仙皓
西雀門人雀平團水建之

田代氏本姓ハ高木氏名ハ秀延琴風軒川草子ト号ス後檀林軒
ト改ム大和ノ人大坂ニ住ス寛文未東府下リ宗因風ヲ弘
飛躰トテ日々ノ變化ヲアラス是ヲ江戸檀林ト云家書

虎漢集西雀薈宿有リ没年詳ナラス

松井氏通称詳ナラス也雲軒ト号ス攝州伊丹久或曰池

家書無分別宗因ノ句ニ下籠ぬけ木兵百九

遠山鳥宗因ノ句ニ下鶴真似加校ニハ無盡經

野梅集 寺アリ伊丹風ノ祖ナリ當百人一句ノ一人

菅野谷氏薈髮ノ法橋ニ任ス於京師宗因力誅風ヲ立總本

寺半傳連社ト号ス蓋シ東府ノ檀林對ス意也交静 仙菴

如泉等高政ニ與シテ梅翁ノ風ヲ弘ム因之古風ノ俳士ト爭論

交起ル所謂ル破邪顯正頼政ノ心三人ノ心

等ノ闕各多ク出ス又オノカ著ル集ハ 中庸姿

宗旦

高政

惟中

繪ノイハ傍 同後集 是天道 三百韻

江戸躍 等アリ没年詳ナラス當百人一句ノ一個也

岡西氏通称詳ナラス名勝 字赤子一時軒或閑々堂ト号ス

因幡國取鳥ノ人弱冠ヨリ博物多識ナリ故アリテ因幡ヲ去テ備前

岡山ニ寓メ專儒ヲ以テ業トス延宝五年再備前ヲ出テ浪卷高鹿橋側

ニト居ス初歌道ヲ関与兵衛盛貞中院通村卿及鳥丸資廣卿ニ教

ヲ受ク一年西羽西國ニ遊フ則門人トナリテ滑稽家ト尤家書

太郎五百韻 次郎五百韻 誦諧蒙求 十百韻

近來風躰 誦諧三部抄 波團扇返答 破邪顯正返答

自註評判返答 いつと都の 徒然草直解 續無名抄

徒然草真名 枕草紙芳註 和歌秘密 一時隨筆

外題カエ金沙 草節ト云 等アリ 元祿五年 壬午八月十日没行年

五十四歳 家譜 望一門下ノ条ニ曰「惟中岡西氏備前人也

初号ニ有後改惟中云又同書 園女ノ条ニ惟中去郷住于浪

卷之日迎之園女為妻中没後移住于東府屬其角云云

此說謬ナリ一有ハ斯波氏ニシテ伊勢山田ノ佛哲ナリ惟中カ

非家大系圖下卷

初号ニアラス御田扇天和二年伊勢山田心友撰り當世百人句元禄四年印本日本行脚文集

伊勢大定等二兩個トモニ出タルヲ以テ惑ヲ氷解ベシカヲ園女ヲ惟中三千凡著カ妻ナリト云モオノワカラ明白ナル尚蕉門ノ条ニ委シ

前川氏名ハ由平或由兵衛トアリ夕舟子ト号ス浪老平野町ニ住ス

晩年親門ニ入テ自入ト改公室永年間に北野村ニシテ没行年未詳

林氏名字詳ナラス西鵬齋ト号ス大坂久延宝年間俳字ノ為ニ東府ニ赴ク宗因己カ梅ノ一字ヲ讓テ梅朝ト改公其以前ハ

西鵬ヲ以テ号トス家書 精進贈 通一馬 等アリ當百人一句ノ弟ニ出ス

高瀧氏始山通称正左衛門名安之薙髪メ似仙ト改又自益翁ト称ス泉州堺久後大坂江戸堀竹屋町ニ住ス初ハ令徳門

人外家書 落花集 犬さくら 両吟千句 濡がしと 等アリ没年詳ナラス大坂俳歌仙ノ一人

松山氏名字詳ナラス大坂ノ人 季吟門鳴戸水雲ノ作セシ大長刀三「致也」大坂の人季吟先生旧友めて俳諧の糸舎度くありし其舎のさびき等先生はゆきせし人とて稱

昨非 定直 幾音 西國 如自 萍宿

且亦去年延宝四年の四月にうせし人なりとトアリコニ大坂乃濁流ニモ深ストアレバ別流ノ人タリヤ尚ヨク考ベシ浪老俳哥仙ノ人

乾氏名字詳ナラス葉香軒ト号ス倫前岡山久酒ヲ嚙テ業ス後浪老江北天満橋側ニ寓シテ点者トナル初立圃門子外家書 繩すゞ礼

悲の巻 根合 かいぼり 等アリ 木畑氏通名玄佐倫前岡山人医ヲ以テ業ス家書五ヶ國

両吟集 脊戸曙 朧 月夜 等アリ 中堀氏柳和軒ト号ス始器音後幾字段浪老尼寄町ニ住ス家書

家土 産アリ○兄ヲ初知ト云狂歌俳諧ヲ能ス何人所タルヲ不知 豊後國ノ桑門或西海トモ云家書相 腹 中 花見數寄

西吟十歌仙 等アリ没年詳ナラス 石井氏朝鷗子ト号ス肥前佐賀ノ人ナリ始立圃梅盛ニ親シ宗因

西國ニ遊ル期門弟トナリ則西吟二百句ヲウラス一時雨ト云冊子是也 那波氏通名江雲初名志好標軒ト号ス又自萍翁ト称ス京師ノ

方由

南氏通名元順泉州堺人医ヲ以テ業トス寛文年間堺天神社
前三始テ編笠著誂詣十方句附合ヲ催ス騷人爰ニ集テ其風流亦
聞ルラ感ス私ニ江戸龜戸社前ニ於テ閑遊セヨ長ク後也家書寬 悟集 二日十句
等アリ晩年ニ及テ正風ニ皈ス没年詳ナラス○按スルニ元禄二年
尾陽ノ俳士檀木堂荷兮撰ル荒野集ニ辞世ノ吟アリ左抄出

瓢界

北村氏名字詳ナラス始瓢海ニ作ル大坂ノ人後江戸ニ移居家書
大満 呂 難波順礼 等アリ或昏云名宗俊

一得

牧野氏名字詳ナラス始西鬼ト号ス又自鬼翁ト称ス 浪老
上町ノ住 家書 たのやし 一卷アリ

盤谷

志水氏名字詳ナラス泉干ト号ス江戸瀬戸物町ニ住ス或云本土
越前ノ人トモ家書桑 梓 格アリ 再曰三番續室水ニ
年印本

遠舟

和氣氏名由貞ト号ス浪老ノ人筆道ヲ以テ海内ニキリ門人
ニ水井走帆堂トスアリ。家書 浪老辨慶 姿 哉
八重一重 等アリ ○或書ニ和氣仁兵衛堀詰ノ住トアリ

豊流

岩橋氏名豊春攝州天王寺邑人
家書 天王寺名所彼岸櫻アリ

重安

伊勢村氏通名宗善浪老ノ佛匠ナリ始古風ヲ吟レ後宗因カ門弟トシ
家書 系 屑 集 東針菴高島殿士
著ス系屑ト別ニアリ

悦春

岡田氏通称大文字屋二郎兵衛浪老ノ人始ハ令徳ニ隨ヒ後宗
因ニ属ス浪老俳諧仙二人ナリ

三ヶ

木村氏通名宗玄不水子ト号ス後三箇ト改ム又再三ケト改ム
始ハ安静カ門ニ入後檀林ニ属ス晩年蕉門ニ皈スト

六翁

黒川氏名字詳ナラス大坂ノ人昨非ノ撰ル繩すれ既禄ニ病ニ
四ありて
あり死ぬ思ひ侍りけし書付てふらの娘よのこありて世辞

肯怒

片岡氏通称在二郎松舟軒或松門亭ト号ス浪老堂嶋ニ住ス始ハ
季吟門弟トシ好旅日記 五卷ヲ著ス 俳骨ニ
アラ

清風

鈴木氏 秋風子ト号ス羽州尾花澤ノ人京師ニ属ス家書
由加多椰麻 稻むーろ おくと双六 吐 授 鶏
あやーき 赤曇り砥 等アリ ○此士傳別ニ論アリ

治平 均明 春倫 宗静 秋香 鸕一 正友

城越氏或堀越氏通称詳ナラス摂陽平野邑ノ人後大坂備後町八町目ニ住テ古筆賞鑒ヲ以テ業トス家書古今俳諧師手鑑アリ苗氏詳ナラス通称亀屋徳右衛門ト云浪老ノ人櫻千句十歌仙各孟吟者濱田氏名字詳ナラス浪老ノ人○從弟ヲ春良ト号ス俳諧ヲヨクス和歌明題部類抄ヲ著ス或云維舟門人トモ土橋氏通名以慶後以計ト改ム大字軒ト号ス又春林子ト称ス摂州平野邑ノ人後長堀十町目住ス筆道ニ名アリ家書浪老色紙アリ没年詳ナラス案スルニ正徳ノ頃歿井上氏通名昌海名貞則大坂高麗橋筋島屋町ニ住ス筑波道ヲ以テ業トス里村家ノ門人俳諧ハ宗因門弟タリト苗氏詳ナラス越後國丸足ノ人大坂ニ寓ス家書八景集アリ

無ト 宗貞 醉鶯 正察 未次 四友 雪柴

アラス別人ナル一苗氏ヲ見テモ論ナカレシ冬ニ如友門人ト云考アリ望門ニ平田氏蛭翁ト号ス江戸ニ住ス本士ハ越ノ國ノ人ナリ享保五年庚子十月廿日門人京橋柳町忠次宅ニテ没行年六十二歳辞世其心その期ありてそのかこ先とれをいれよ世の中浅沼氏質也ト号ス又望山軒ト号ス浪老嶋屋町ニ住ス書ヲ善クス白江氏通称玄桃医術ヲ業トス始メ名ハ白云ト云浪老御霊前ニ住ス筆道ニ名アリ大坂西道寺住職半捨軒ト号ス家書淨土珠數アリ苗氏詳ナラス通称八坂屋治右衛門授易住吉ノ人去々吟者土屋氏通称外記松平出羽守君ノ家臣江戸小坂井氏或由比氏トモ通称左衛門江戸ノ人檀林十百韻吟者

萍友

荻原氏阿波德鳴
久家書四國猿

如見

樋口氏浪老久
名字詳ナラス

西隨

早川氏
同

一禮

中村氏始名志討ト云
檀林十百韻ノ一人居
所上ニ同シ

夕烏

深江氏
同

素敬

苗氏詳ナラス
同

櫻花

松井氏名重宣
同

百丸

森氏名一勝白鷗堂下号
ス伊丹ノ人

本兵

岡島氏名豊常
同

鐵幽

上島氏 兔貫親族
同

鷺丸

苗氏詳ナラス
同

昨雲

笠原氏通称半左衛門
江戸ノ人

柴舟

苗氏詳ナラス
大坂ノ人

夕扉

船橋氏
夕扉妻
同

榮倫

紫硯

内藤氏左京亮名義恭風鈴軒白藤子ト号ス又風虎ト号ス奥州岩城族 御集 夜のふき 櫻 川 信太と云 六百番俳諧合 等アリ

露沾

内藤氏義恭君御嫡下野守名義英遊園堂又傍池亭ト号ス父君下俱ニ宗因カ門弟タリ 享保十八年 十四日卒

◎西山宗因孫弟系

井原西鶴

東鶴

北尾紅翠齋ノ繪本ノ序ニ 此名見エタリ西鶴孫ト云

西吟

水田氏通称詳ナラス落月菴ト号ス津國櫻塚ノ人書ヲ善クス師ノ一代男 八巻ハ此士ノ筆ナリ 家書 西吟内々ノ 鬼の目 浪花さくら 菜のむか

鶴平

塩味集等アリ當世百人一首ノ入り元禄年間点者
下山氏通称喜右衛門大坂に齋橋筋北久宝寺町に住シテ
物ノ本ヲヒサグラ業トス
姓氏詳ナラス

炭翁

團水

北條氏俗名詳ナラス橋堂又平元子ト号ス薙髮シテ
白眼居士ト云ニ條堀川ノ人ナリ後浪卷ニ下リ西鶴力遺跡ニ
住シテ西鶴菴ト改ム家書塗笠秋津一五
たん袋 弥之助 独鈷鑛論西雀ト西作
特ろ 等アリ家譜ニ生涯清貧之人也トイリ
宝永八年辛卯正月四日没行年四十九
辞世 かぢりく引るく胸の月清し
再曰正徳二年印本年号未詳怪談諸国物語ニ團水名アリ別人ナリ

貞上

姓氏詳ナラス文々合藤角力橋屑ニ西雀菴山田溪尾ト云
人アリ此人ノ後名欵又ハ東雀力初名欵

才磨

椎本氏始音氏云名則氏字少文松笠軒ト号ス又舊徳翁ト称ス
初名西丸八十九ト号ス南都人或云和加始江戸ニ住シ後難波
父市町又天満七町目ニ寓ス家書千葉集 伊丹句合
元文三年戊午正月二日没行年八十或曰宗因直弟

只丸

弄松閣ト号ス又自鴨水子ト称ス高田宗ノ僧京師本誓寺
中福昌菴ノ住職法名覚印ト号後浪卷谷町欣浄寺ニ
住シテ家書 三阿ト云 小松原
木のひりり 足どろひ 貞徳永代記批言

佳風

等アリ正徳二年壬辰十二月二日寂七十有余謚樹心房云
辞世 陸と思ふ鴨やかふもの水もろれ
豊島氏通称平治右衛門有紀堂ト号ス始才尾ト云江戸塚町
ニ住ス家書 夢想 扇 あり享保十二年戊申十二月十
四日没四十九谷中大雄寺ニ葬ル法名日好ト云
笠家氏素竹軒ト号ス晩年半局菴ト称ス江戸浅草
竹門ニ住ス家書 犬椿葉集アリ延享四年丁卯五月

逸志

非家大系圖下卷

芳室

北七日没行年詳ナラス報恩寺中高徳寺ニ葬ル
椎本氏甘泉菴ト号ス舊室翁ト称ス浪卷ノ人 家書
難波鶴 續千葉集 追善集 石霜菴
白玉椿 著花集 等アリ
丁卯三月四日没行年八十四

矩州

椎本氏五彩堂ト号ス初名桐磨元奮徳翁門人ニシテ
芳室カ後ヲ續ク 家書 哀些集 清逸集
四日施 等アリ没年詳ナラス

春耕

千葉氏石橋隣ト号ス浪卷
ノ人 家書 無盡藏アリ 皎々 光枝氏鶯 魯紅
児嶋氏青房ト号ス浪卷ノ人 家書 厚顔記
通俗志 奥小日記 等アリ没年詳ナラス
十河氏通称詳ナラス家書土 餅 松之鳥米
等アリ没年未考大坂ノ人

負丸

何中

大立

竜田氏水足軒ト号ス 家書 毛登能水 又カノ水
延享元年甲子四月廿六日没六十九歳欣
辞世 在ハ廿日我ハ六十九夜の明

尤橘

水足氏荷旃齋ト号ス家書 天香集 古硯屏
等アリ没年詳ナラス大坂ノ人
稻木氏始房磨ト号ス家書 霜と礼 小倉塵
布恩川 月の月 倭多羅尼 象山蔭

梅門

等アリ没年詳ナラス浪卷ノ人
吉田氏戸樞菴ト号ス家書 梅朝 此君
波入日 梅千本 二日影 等アリ

了雨

田代松意

松水 杉木氏 田代氏 於龜戸天神宮回廊 笠著
誦諧之發起 あやかし三アリ
延宝三年 江戸談林十百韻 一座セル 野口在色 出来松白
豊後一朝ノ三十八宗因直弟欵松意下葉欵未考

管野谷高政

正定

川合氏

正長

以上三人延宝ノ中庸安ニ出タリ門人ナルヘシ

前川由平

来山

小西氏蚤歳父母ヲ喪シ親族ノ為ニ盲ニテ人トナル性敏質直平日只書ヲ讀ムコトヲ好ム由平曾テ児ノ宗族ト善シ強テ請テ門弟トス一ヲ教レニテ悟ス由平愛之如子齡未二十ニ満スレテ案ヲ榷詞宗為ル十萬堂ト号又湛々翁ト称ス平野町ニ住ス晩年ニ及テ撰南今宮村ニ移住ス享保元年丙申十月三日没行年六十有三一心寺ニ葬ル

辞世 来山云々はねとむでたぬとこれでも何れか

家久

長井氏通称詳ナラス政市ト号ス又伴自軒ト称ス後伴自ヲ以テ号トス家書 玉乃り笛アリ

高橋氏撰笈鷺森ノ久浪卷淡路町中筋ニ住ス家書 夜ひるアリ

古道

布門

村井氏無名園ト号ス南都久 寛延二年己巳十月四日没行年六十九歳 家書 花日記

井上氏五流齋ト号ス又自桑老父ト称ス

小正月

手束弓

葉曇

卅三回忌

禱之能

若葉井戸

有馬日記

桑老父

南無きい

呼子鳥

等アリ大坂久没年詳ナラス

樊川

林氏東江閣ト号ス浪卷久 家書

擊鼓樓

一日三

櫻道

雲峯

句高判

菊

荀

東武紀行

藍乃手

等アリ

没年詳ナラス

高瀧似仙

万海

武村氏通称詳ナラス名昌數曳尾堂ト号ス師ノ益一字ヲ受テ益友ト号ス大坂丁目筋ニ住ス浪卷色紙百人句ノ人

志水盤谷

二世 盤谷

千足氏梅堂ト号ス始尾谷ト云神田住ス家書
園圃録 丙子年 等アリ寛延元年

戊辰土月六日没行年不詳

概純

松賀氏通稱伊織紫塵ト号ス風虎
君ニ教ヲ受ク 仙臺岩城人

内藤露沾

露言

福田氏風琴子ト号ス初調和門ニテ調也ト云江戸南傳馬町
住ス元禄四年辛未四月十日没六十有余

露言

白堂ト号ス
江戸人

宝生氏通稱左太夫江戸人
後蕉翁門ニ皈テ沾圃啓

雨言

水間氏通稱治郎左衛門名友兼合歡堂ト号ス又友齋ト稱ス始

沾德

公露言門弟ニテ沾葉ト云東府人後一家ヲナシテ四海鳴ル家書
餘花十句 同 續 一字幽蘭集 後年名古屋ノ士明
カ著述ニ同名アリ

沾洲

貴志氏行軒齋ト号ス又自五千叟ト稱ス始名氏丁ト云東武
ノ人家書 雨吟集 西行菴 芭蕉菴

梅日記 七十子 等アリ元文四年 行年七十歳

太高氏通稱源吾名忠雄播州赤穂淺野家ノ義士死スルトニ三十三

辞世 梅でのひ茶屋をるる(一)死出の山

富森氏通稱助右衛門名正因淺野家ノ義士死スルトニ三十四

辞世 専鳥の舟のひらりとりあり

神寄氏通稱與五郎名則休淺野家ノ義士死スルトニ三十七

辞世ノ吟不知○以上三才傳諸書ニ出テヨク知ル所ナラズ後ニ畧ス

鴛田氏六峴仙ト号ス江戸芝場

町住ス享保十五年没行年不詳

内田氏通稱不詳薙髪ノ桂二房ト号ス江戸淺草ニ住ス家書

麓乃道 濱松枝 東十句等アリ宝曆八年没

沾山

非天不天園一巻

世

青城

前田氏二柳菴ト号ス

始又梁或菴室ト云

始又梁或菴室ト云

春帆

竹平

青山

沾山

仙鶴

堀内氏化笛齋ト号シ長生菴ト称ス又自鶴翁ト称ス元東府人宝永中京師ニ出テ点者タリ此叟茶ヲ嗜ミ古器ヲ愛スル癖アリ故ニ其道ニ透ノ人此叟ヲ識者多シ又戯画ヲ善ス 家書 忘クハ 十二月箱 水精宮 人曆千年記 等アリ 寛延元年戊辰閏十月廿一日没行年七十四歳

鶴人

森川氏並笛齋ト号ス京師人 寛延三年庚午三月朔日没五十二

甘谷

長島氏名字詳ナラス 甘谷男 宗久 長嶋氏通称詳ナラス 享保十三年没 宝曆七年没八十二

壺月

石川氏江戸人 享保中ニ没

蒲丈

豊津氏午晴菴ト号ス又鹿吼子ト号ス初東府ニ在テ業ヲ行軒齋ニ受ケ後浪卷ニ出テ一炊菴ニ属シ点者トナル 家書 画賛集 五百仙 等アリ没年詳ナラス

謝大

長濱氏朝巢軒ト号ス 大坂人

常仙

志村氏孤鶴汀ト号ス或ハ二橋菴青麥堂ト号ス又長鶴子ト称ス家書 続乃筏 鳩むっー 千々の秋 等アリ

幸徳

延享元年甲子二月 没ス行年詳ナラス 今村氏石泉ト号ス始名ハ魚尺江戸和泉町ニ住ス 家書 震中倉アリ 没年詳ナラス

紹廉

小野氏銀竹堂ト号ス後一炊菴ト号ス 浪卷人 家書 宗因句集アリ

白羽

鹿嶋氏十南齋ト号ス往シ延享中独吟万句ヲ催ス 席ヲ備後 二張終日ニテ満座ス其雄名坂中ニ鳴ル 家書 無山香

藤角

石 紫 五文臺 一日萬句 難波筏 等アリ 没年詳ナラス

木澤氏文々舎ト号ス浪卷人 家書 橋屑 蛙ふるら 等アリ

芳 畫

木村氏亞齋ト号ス
泉易塚ノ人

茶 雷 山縣氏東居齋ト号ス
浪卷ノ人

露 月

豐嶋氏通称治左衛門名貞和五重軒ト号ス始ハ識月ト号ス
東都久享保十六年薙髮シテト改公家書

二子山 倉ノ衆 名物鹿子 二重漆

卯月庭訓 闇のう先 寄進能 句靈宝

等アリ 宝曆元年辛未 没行年八十五

露 牛

赤菽氏名字詳ナラス始ハ湖十門人 湖十門人申編委ニメ
花麥ト云江戸ノ住

沾 涼

菊岡氏通称藤兵衛名房行雀下卷又南仙齋ト号ス始ハ一品
ノ門子ニシテ南仙ト云江戸神田ニ住ス本士ハ伊賀上野ノ人家書

百福壽 同後集 綾小しき 鳥山彦

百花實 日光名跡志 近代世事談 江戸鹿子温故志

江戸砂子 同續 本朝俗諺志 誹諧故事談

等アリ 延享四年丁卯十月廿四日没 行年六十有余

淺草 誓願寺ニ葬ル

布 仙

菊岡氏晴行舎ト号ス
沾涼嫡子居父同所

軒水 本秋 如昔 西鴈 荷平 似扇 文流

天垂 燈外 幸方 岸紫 美雀 宗圓

○右之俳士イヅレモ檀林黨多リト雖モ系統考ガタシ

○三千風

大淀氏名ハ部字友翰勢州射和邑ノ人大箭數ト称シ寓言堂
或無不非軒紫眞軒ト号ス 此外尺鷲堂ニ合堂椿末
亭無月卷ノ數アリ 十五歳ニシテ誹諧ニ

傾キ和漢ノ學ニ通シ文筆ヲ善ス和歌連俳ニ於テ師園ニ入頓悟久

也三十有ニメ浮屠トナリ吞空法師ト号ス日本舊地勝景徑徊ノ志ヲ

起シ先仙堂ニ赴キト居スルヲ十五年ヲ経タリ延寶ノ頃一日ニ獨吟三千

句ヲ吐テ片時ニ數幅紙牋ニ書ス故ニ以テ為名後天和三癸亥春仙堂

ヲ發足シ元禄ニ己巳夏ニ至テ首尾七年ヲ行脚成就シ射和ニ皈ル

後又相州ニ赴キ茲ニ位舊跡鴨立澤ヲ再建シ自ラ東往居士稱ス
蓋シ行脚ノ首途ニ四月四日ヲ以テ命期ト定ムキ旨嘗テ遺言セリ
家書 松嶋一色兩吟集 同 後集 仙臺大箭か
日本行脚文集 大本 田鳥集 等アリ
辞世 後ニ来て眞ニ心衛門ニまねぬ前の父アリ子
發句 ちつどもやんぬせ乃旆の衣文

加之

姓氏詳ナラス和風軒ト号ス仙臺久ニ千風高弟ナリ依テ吞
空法師仙府ヲ去ル時文臺ヲ附興セリ家書 ちつがら
山海集 蓮乃實 等アリ 元禄年間久

慶長ヨリ此方師門詳ナラザル名家別ニ卷ヲ屬テ稻津
敬雨孫弟ノ後ニ附ス

誹家大系圖下之卷 畢

誹家大系圖後叙

誹家大系圖後叙
誹家大系圖あり、事、殆、四、百、子、に、至、り、後、積、ま、は、
棟、り、を、ち、東、を、も、碑、を、た、た、し、其、作、を、
系、譜、の、如、き、は、實、々、と、し、て、見、ゆ、と、は、り、但、
享、保、の、法、氣、圖、沾、染、の、あ、や、し、ま、何、を、あ、
た、る、の、あ、り、を、は、り、に、は、り、と、あ、り、
い、は、る、人、も、た、た、る、あ、り、し、よ、わ、り、の、流、来、
沁、滲、新、く、あ、り、し、く、あ、り、あ、り、と、あ、り、

たくくあそその人そく其名をさきかき
 名をいひてむく難くはくつゆわ
 生川のぬき法をましあはれゆく伝業
 を流撮てつと編めりゆのすつく三編
 名つまきつ流借大急果と云、まわ梓とよの
 せんまはるつとつゆわゆいしりんか
 けくたをまかそつとつゆわ志ゆいゆ
 へりむく見おゆりよまてつとつゆわ一人の

つとつゆまあまはつとつゆわく好古
 心きをくくくくせんおゆまてつとつ
 末の世まてつとつゆわあそ人のたき
 つかくつとつゆまをうつとつゆわ
 名をいひてつとつゆわ力はつとつゆ
 のつとつゆいつとつゆわかんまはれ
 せんまはるつとつゆわつとつゆわ
 つとつゆまをうつとつゆわ

言部

伊勢何とがけ
三卷 古画 古画入
好間漫録



入江

